

アトリエ 琉游舎 だより 56号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/

2019年7月3日発行

琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

もうすぐ夏休み

○夏は夏らしく、冬は冬らしく。その季節らしい天気と気温と湿度が、人の体にも作物にも一番いいはず。今年の梅雨らしい梅雨もそろそろ終盤です。そしてもうすぐ夏休み。

○さて、琉游舎の夏休みは毎年同様なので、昨年のお知らせを再録します

★学校に通っている皆さんもうすぐ楽しい夏休み！ 😊

★でも夏のドリルや日記や自由研究をやらねば、タイヘンダ 😱

★家にいるとテレビやゲームの誘惑があるし、どうしよう 😓

★そうだ琉游舎に行こう！ 👍

★あそこは涼しいし、テレビがなくて静かだし 本も冷たい麦茶もあるようだ 🍵

○ということで夏休みが待ち遠しい皆さんお待ちしています。

また朝夕の散歩の一休み、熱中症予防にぜひ琉游舎にお立ち寄りください。

読書会は7月23日で「妙法蓮華経」の全巻が終了します。8月からは親鸞の「嘆異抄」を予定しています。他宗の宗祖の本を読書会で扱うとは何事かといぶかしがる方があれば、一度覗いてみてください。信心は、宗派の中ではなく個人と仏との間にしか存在しないことが良く分かります。皆さんと一緒に「信ずること」について楽しく語り合しましょう。

7・8月のスケジュール

7月			木	金	土	日
月	火	水	4	5	6	7
8	9 読書会 13:30	10	11 映画会 13:30	12	13 詩話会 13時半から	14 写経会 13時半
15	16	17	18 映画会 13:30	19	20	21
22	23 読書会 13:30	24	25 映画会 13:30 居酒屋の会 16時	26	27	28
29 休舎	30 休舎	31 休舎	8月1日 映画会 13:30	2	3	4 写経会 13時半
5	6	7	8 映画会 13:30	9	10 詩話会 13時半から	11

映画会

毎週木曜日

13時半から

休舎のお知らせ

7月29・30・31

はお休みです

写経会

7月14日(日)

8月4日(日)

13時半から

詩話会

7月13日(土)

8月10日(土)

13時半から

読書会

7月9日(火)

7月23日(火)

13時半から

頭を丸めているといいことづくめです。まず寝ぐせの心配がない、出かける前に髪を整える必要がない、髪の毛やふけが落ちることもない。シャンプーもすすぐお湯も必要ない。散髪代も整髪剤もドライヤーも必要ない。頭が涼しい。熱く（カーッ）なっても気化熱ですぐ冷える（冷静になる）。など経済的にも衛生的にも精神的にもいいことばかりです。と思っているのは6月までで、また蚊の季節がやってきました。湿度の高い朝夕は蚊の食欲が旺盛な時刻なのか、畑で収穫や草むしりをしていると麦わら帽子の隙間から皮膚を露出した頭に針を突き刺してきます。髪のある時分は頭を蚊に刺されたことはありませんでしたが、頭を丸めて以来この時季から3か月ほどは毎日のように蚊の攻撃にさらされます。頭はほかの場所以上に痒くてたまりません。丸めた頭をポリポリ搔いている坊さんでは様になりませんね。まだまだ修行が足りません。

人を外見で判断をしてはいけません。という考えはこの現代日本では言わずもがなのことでしょうか、髪型で身分や職業を区別することが、秩序維持に必要とされた時代がつい150年ほど前まで続いていました。公家や武士、豪商や町人、学者、芸人、芸妓など、外見で身分や職業が分かる必要が有史以来江戸時代まではあったのです。明治以降は自由平等、人権意識の高まりで身分差別も職業差別も建前上はなくなったので、髪型だけではその人の職業や地位も分からなくなってきました。昔から変わらず髪型を守っている職業はおそらく、大銀杏を結う相撲取りと剃髪する僧侶だけでしょう。

ではなぜ僧侶は剃髪をするのでしょうか。お釈迦様が生きていた古代インドでは頭髪を剃ることは重罪の一つで最も恥とされていたようです。昔の日本でも、戦いに負けた者が剃髪して勝者の前に出て悔悛、恭順の意を表したり、刑罰として「御成敗式目」などには剃髪刑の定めがあったようです。余談ですが、かつて私が所属していた職場でも職務上の大失敗をしでかすと、次の日に丸坊主にして謝罪の意をあらわすという時代錯誤の挙に出る人がたまにいました。このように剃髪の意味が歴史的に刑罰や改悛と強く関係づけられている中で、お釈迦様は釈迦国の皇太子の身分を捨てて出家するにあたって、あえて重罪人の印である剃髪姿を選んだといわれています。社会秩序から自らを追放する（出家）ためには、重罪人と宣言するしか方法がなかったのかも知れません。今となっては真意をお釈迦様に聞くことはできませんが、恐らく俗世間との関係を断ち切るための自分自身への覚悟と戒めの宣言だったのでしょう。それ以降お釈迦様に帰依した人々は同じように剃髪をして弟子となりました。これが今に続く僧侶の剃髪の起源といわれています。

出家するという事は親も子も財産も捨てて社会の法律と秩序の埒外に出ることですから、確かに秩序の破壊者、重罪人です。ただ現実には出家しても寺院や教団という新たな俗世間を生きていくことになってしまいます。どのように精神的に親子や社会との縁を切っても、その社会のどこかで「食べて寝て起きてまた食べて」の繰り返しの毎日を生きていくしか肉体を維持する方法はないのです。出家をどんなに理論化し正当化してもその本質は矛盾です。俗世間から抜け出すという考えがすでに矛盾であることは、寺院や教団が巨大な集金装置として社会機能の一角を占めている事実が表しています。そこは新たな俗世間であり、そこも社会の一つの組織にしか過ぎないのです。出家者が俗世間から資金調達をして生活の糧にしていると言う事実は立派な経済活動と言うほかありません。ですから僧侶は職業なのです。剃髪することは職業人としての目印であり看板なのです。現代では髪型が看板になる職業は前述したように相撲取りと僧侶だけのようです。この看板は営業許可証のようなもの。大切にしなければなりません。最近は剃髪もせず髪を伸ばしている僧侶をよく見かけますが、職業人として営業力をアピールするのであれば看板をしっかりと整えておくべきと思うのですが、いかがでしょう。私達もただきらびやかで大きな看板に惑わされることがないようにしなければなりません。「看板倒れ」「看板に偽りあり」はどの商売でもあることですから。

私は僧侶ですが、僧侶という職業を営んでいるわけではありません。他に呼び方が思いつかないので「私は僧侶です」と自称していますが何か良い呼び名はないでしょうか。私の毎日を自省すると「安らぎの処に歩いていく行いの日々を過ごすこと」それが僧侶と自身を呼ぶ理由のようです。剃髪し毎日経を唱え、食べて寝て飲んで話して笑い喜び哀しみ怒る毎日を変わず過ごすことがお釈迦様と共に歩むことであり、それを僧侶の日々と呼んでいるだけです。出家前と違うことは剃髪と朝勤をするこの二つだけです。このように職業人としての自覚のない僧侶は、本物の僧侶から「僧侶を騙るニセ者よ、営業妨害するな」と糾弾されそうです。蚊の攻撃さえしのげれば頭を丸めているといいことづくめなので、自ら剃髪を放棄する理由が見当たりません。だから私は当面この快適な髪型で過ごすつもりです。僧侶の職を営むビジネスマンの方々と混同されないよう「私は僧侶ですが僧侶を職業とする僧侶ではありません」とここで繰り返したいと思います。

私の中学時代は丸刈りが強制でした。田舎ではそれがあたり前で先生も親も生徒も誰も疑問を抱かず、私だけが丸刈りに異を唱えていたものでした。甲子園に出る高校野球生も例外なく丸刈りです。ナチスの恋人だった連合国の女性たちは見せしめに丸刈りにされました。私にとって丸刈りは強制と罰のイメージしかなかったものですが、今は嬉々として剃髪までしています。これはどういう心境の変化なのだろうとつるつるの頭をなでていると「そうだ明日から畑に出るときはタオルでほっかむりを 琉游舎：戸井 出琉・恭子 して行こう」その方が麦わら帽子より蚊の攻撃を防げそうだ お問い合わせ先：0287-53-7848 08033508152 という妙案が浮かびました。それではまた。（出琉） 矢板市大槻2319-17 コリーナ矢板C-850